

検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さてこの度、別掲の項目につきまして、2026年4月より検査内容を変更させていただきますのでご案内いたします。

誠に勝手ではございますが、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

敬具

記

対象項目／変更内容

- 別掲の一覧表をご参照ください。

変更期日

- 2026年4月1日(水)

検査内容変更項目一覧

コード	検査項目名	変更箇所	新	旧	備考
1116	KL-6	検査方法 検体量 保存方法 報告下限	LA(ラテックス凝集比濁法) 血清 0.5mL 冷蔵(安定性1週) 50 U/mL 未満	CLEIA 血清 0.4mL 冷蔵(安定性4週) 10 U/mL 未満	
0864	馬尿酸 (HA)	検査方法 所要日数 報告下限 報告桁数	酵素法 2~4日 濃度 0.1 g/L 未満 小数1位、有効3桁	LC-MS 4~6日 濃度 0.01 g/L 以下 小数2位、有効3桁	
1228	メチル馬尿酸 (MHA)	検査方法 所要日数 報告下限 報告桁数	酵素法 2~4日 濃度 0.1 g/L 未満 小数1位、有効3桁	LC-MS 4~6日 濃度 0.01 g/L 以下 小数2位、有効3桁	
1367	オステオカルシン (BGP)	検査方法 検体量 保存方法 基準値 報告上限 備考	ECLIA 血清 0.4 mL 凍結(安定性12週) M 8.4~33.1 ng/mL F(閉経前) 7.8~30.8 (閉経後) 14.2~54.8 999000 ng/mL 以上 溶血検体は赤血球に含まれる プロテアーゼにより分解される ため、使用しないでください。 ピオチンを1日5mg以上投与 ・摂取している患者からの採血 は、投与後、少なくとも8時間 以上経過してから実施してくだ さい。	FEIA 血清 0.3 mL 凍結(安定性4週) 8.3~32.7 ng/mL 999999 ng/mL 以上 溶血検体でのご依頼は避けて ください。	
0569	ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 〈尿〉	検査方法 保存方法 基準値 報告下限 報告上限	ECLIA 冷蔵(安定性2週) 3.0 mIU/mL 以下 1.0 mIU/mL 未満 999000 mIU/mL 以上	FEIA 冷蔵(安定性12週) M 2.5 mIU/mL 以下 F(非妊婦) 2.5 mIU/mL 以下 2.5 mIU/mL 以下 950000 mIU/mL 以上	3頁参照
0692	NAG	基準値	11.5 U/L 以下	10 U/L 以下	添付文書表記に準 拠
0246	ケトン体	基準値	28~120 μ mol/L	76 μ mol/L 以下	
0700	ケトン体分画 〈静脈血〉	基準値	総ケトン体 28~120 アセト酢酸 14~68 3-ハイドロキシ酪酸 0~74 μ mol/L	総ケトン体 22~168 アセト酢酸 18~83 3-ハイドロキシ酪酸 106 以下 μ mol/L	
0642	フェノバルビタール	基準値	10~40 μ g/mL 投与直前(トラフ)	10.0~35.0 μ g/mL 投与直前(トラフ)	
0207	ASO 定量	基準値	239 IU/mL 以下	166 IU/mL 以下	
0672	血清補体価(CH ₅₀)	基準値	31.6~57.6 U/mL	29.0~48.0 U/mL	
1595	ループスアンチコアグラント 《希釈ラッセル蛇毒試験法》	基準値	dRVVT 比 1.2 以下	1.2 以下 (NR:Normalized Ratio)	
2289	ループスアンチコアグラント 《リン脂質中和法》	基準値	SCT 比 1.16 以下	SCT 比 1.16 未満	表記の適正化
2040	HBV-DNA 定量 《TaqManPCR 法》	保存方法 採取容器	冷蔵(安定性6日)* ¹ 容器番号:79 (8mL 管)	凍結 -20℃以下 (12週) 容器番号:62 (5mL 管)	保存条件の見直し
2034	HCV-RNA 定量 《TaqManPCR 法》	保存方法 採取容器	冷蔵(安定性6日)* ¹ 容器番号:79 (8mL 管)	凍結 -20℃以下 (12週) 容器番号:62 (5mL 管)	
2514	サイトメガロウイルス (CMV)核酸定量 《TaqManPCR 法》	保存方法	冷蔵(安定性6日)* ¹	凍結 -20℃以下 (6カ月)	

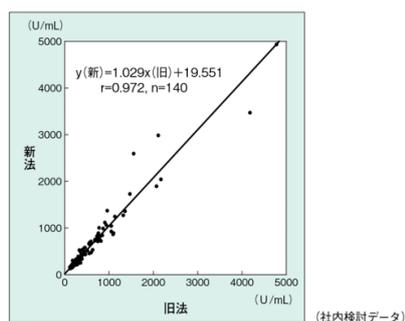
*1:検体提出が保存安定性の期間を超過する場合は、容器番号 97 または 98 を用いて凍結(-20℃以下)で保存してください。

コード	検査項目名	変更箇所	新	旧	備考
2097	HBV ジェノタイプ判定 《EIA》	保存方法	冷蔵（安定性 3 週）	凍結	保存条件の見直し
2122	IgA-HEV 抗体	保存方法	冷蔵（安定性 3 週）	凍結	
1571	アスペルギルス抗原	保存方法	冷蔵（安定性 4 週）	冷蔵（安定性 5 週）	
1495	抗カルジオリピン・β 2GP I 複合体抗体 (抗 CL-β 2GP1 抗体)	保存方法	冷蔵（安定性 26 日）	凍結	
0871	抗アセチルコリンレセプター 抗体 (抗 AChR 抗体)《RIA》	保存方法	冷蔵（安定性 2 週）	凍結	
0050	抗血小板抗体 (PB-IgG)	保存方法	冷蔵（安定性 3 週）	凍結（安定性 8 週）	

KL-6

測定試薬を CLEIA 法から LA(ラテックス凝集比濁法)による試薬に変更いたします。新旧二法の相関は良好で変更に伴い検体量ならびに報告下限を変更いたします。

新旧二法の相関

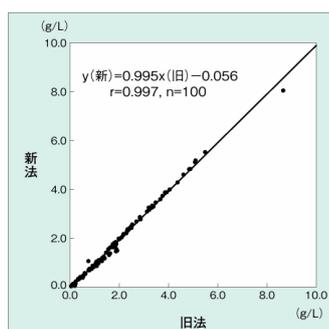


馬尿酸・メチル馬尿酸

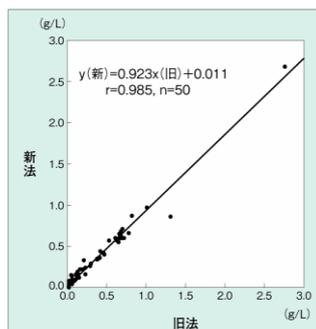
検査方法を LC-MS 法から生化学自動分析装置を用いた酵素法に変更いたします。これまで LC-MS 法による測定では、健康診断が集中する時期に結果報告が遅れることがあり、ご迷惑をお掛けしておりました。新試薬では、自動分析装置による大量処理が可能で、報告日数もこれまでより短縮いたします。新旧二法の相関は良好で、検査方法の変更に伴い所要日数の短縮と報告範囲の変更を行います。

新旧二法の相関

[馬尿酸]



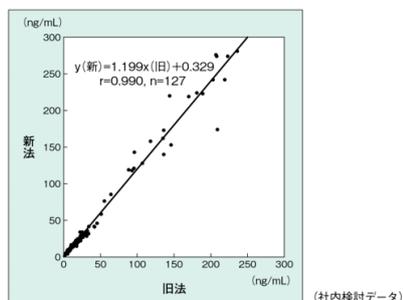
[メチル馬尿酸]



オステオカルシン(BGP)

測定試薬を FEIA 法から ECLIA 法による試薬に変更します。これに伴い添付文書記載の基準値に変更いたします。
 なお、新試薬は測定系にビオチン(ビタミン B7)を用いており、多量のビオチンを摂取している場合は、測定結果に影響を及ぼす可能性があります。ビオチンを 1 日 5mg 以上投与している患者からの採血は、投与後、少なくとも 8 時間以上経過してから実施してください。

新旧二法の相関



ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)

測定試薬を FEIA 法から ECLIA 法による試薬に変更します。これに伴い添付文書記載の基準値に変更いたします。

基準値比較

		新 法		旧 法	
		血清(mIU/mL)	尿(mIU/mL)	血清(mIU/mL)	尿(mIU/mL)
男性		1.0 未満	3.0 以下	1.0 以下	2.5 以下
女性		5.0 以下*		1.0 以下(非妊婦)	2.5 以下(非妊婦)
妊婦	3 週	5.4~72	未設定	4,700~87,200	1,100~62,600
	4 週	10.2~708			
	5 週	217~8,254			
	6 週	152~32,177			
	7 週	4,059~153,767			
	8 週	31,366~149,094		6,700~202,000	1,800~191,000
	9 週	59,109~135,901			
	10 週	44,186~170,409			
	12 週	27,107~201,615			
	14 週	24,302~93,646			
	15 週	12,540~69,747		13,800~68,300	3,100~125,000
16 週	8,904~55,332				
17 週	8,240~51,793				
18 週	9,649~55,271	4,700~65,300	1,400~29,400		
21~40 週	—				

*: 健常者女性を対象としています。閉経後は 10mIU/mL まで上昇する場合があります。

新旧二法の相関

